

第三者評価者としての葛藤 —自分の保育観と異なる保育に遭遇した時の評価—

ひと・まち社評価者 稲葉 穂

ひと・まち社は東京都福祉サービス第三者評価機関として特別養護老人ホームや保育所などの福祉施設の第三者評価を行っています。今回は、ひと・まち社の評価者である稲葉穂さんから、第三者評価や保育経験の中から見える保育の課題や日頃の思い、実践について寄稿いただきました。

2002年に第三者評価制度がスタートして17年、私が評価者になって10年位経っている。評価件数は少なく、評価者になったばかりの数年は1年に1件程度であった。2018年度は仲間の皆さんの協力を得ながら6件をやった。

現役で働き続け、保育園での勤務が長いので、自ずと保育園の評価が多い。自分の保育観と異なる保育に遭遇した時の第三者評価者としての葛藤を経験する時、悩んだり、考え込んだりして、筆が進まないこともしばしばである。

特に、子どもの権利条約(1994年日本批准)に謳ってある「子どもの最善の利益を考慮した人権に配慮した保育」についてである。「子どもを権利の主体」として保育を行っていなかったり、大人の価値観、利益、都合を優先して、子どもの健全な成長や発達を保障していないと思われる保育内容について評価することがある。

専門職として保育観をどのように捉えているのか考えさせられる場面が多々ある。

5歳児クラスが園庭から室内に入る光景を見て

自主性、主体性を大事にした保育をしていると自信を持って応える園長先生、副園長先生。5歳児クラスが園庭から部屋に入る時の保育の一場面を見る。全員の子どものベランダに座らせている。子どもたちには笑顔もなく、習慣で座っている感じである。



園庭でどろんどろん遊びをする子ども

保育士「部屋に入ったら何をやりますか？」

子ども「うがいと6回やります」と一斉に答える。

保育士「はい、よくできました！」

これだけの会話を聞いただけで、

「どうして、ベランダに全員座らせるの?」「早く座って待っている子どもの意味はあるの?」「どうして5歳児にうがいのことを一斉に聞くの?」「一斉に部屋に入ってうがいをしたら、水道の前で順番待ちをするようにならないのだろうか」等、疑問を投げかけたい。

子どもが自分で考えて行動できるように支援していないことを残念に思うが、保育全般がこのような保育観で実践されていると思うと指摘の評価をする勇気もなく、葛藤の中で上辺だけの評価になってしまう。

お稽古事にみられる早期教育

外部講師を招き、英会話、体操、リトミック、お絵描き等のお稽古事を日課としてやっている保育園が多く、保護者からの満足度は高い。

職員のアンケートでは疑問視している意見もあるので、全職員が賛成して事業展開はされていないことが伺われる。

OECDやヘックマン博士(ノーベル賞経済学者)の見解、保育所保育指針にも述べられている『認知能力』を上昇させるには、『非認知能力』を育てることが大切である、『非認知能力』は、幼児期から小学校低学年に育成するのが効果的である、「早期教育は、『非認知能力』の育成を阻み、『認知能力』の発達に繋がらない」、『非認知能力』は、将来の年収、学歴や就業形態などの労働市場における成果に大きく影響する」等を念頭におき、遊び中心の保育を行っている保育園は、リトミック、お絵描きも遊びの中で保育士が行っている。

乳児期から英会話をやっている園もある。言葉の爆発期と呼ばれる3歳頃、語彙数が1000語になると言われているが、英会話をやっている子どもは、物の性質の理解と共にそれを言い表す言葉を使い、豊かな感性を育んでいるか気になる。

私としては、早期教育などはしなくていいと思っているが、「早期教育をしたら」、「早期教育をしなかったら」と仮定に答えることは難しく黙認状態である。

5歳児の午睡について

評価した保育園のほとんどが、就学の準備として、年明けの2月から午睡を止めている。様々な睡眠関係のデータから、5歳児の午睡は必要ないとされている。寝かしつければ眠るが保育園の午睡が夜の睡眠の妨げになっているケースも多い。睡眠には心身の疲労を回復させる働き、脳や体を成長させる働きがある。午後10時～午前2時の時間帯に熟睡していると、成長ホルモンが分泌され、身体、精神面の発達を促進することは、医学上も明らかになっている。夜10時に熟睡して

いるためには、9時には寝る必要がある。保育園で、午睡をしていると、夜、遅寝になってしまう子どもがほとんどである。午睡をしても夜、9時には眠っている子どもは、



3歳児クラスの寝かしつけを手伝う5歳児

午睡が必要な子どもで、その子どもには個別配慮をすればよい。「早起き早寝朝ごはん」を推進するために、5歳児クラスは4月から午睡は止めた方が

よい。4歳児クラスから午睡をしていない保育園もある。午睡をしない子どもたちは健康に伸び伸び育っている。「寝る子は育つ」というのは本当である。



午睡時間帯に好きな制作をしている5歳児

5歳児クラスの午睡は、必要ないと確信を持って言えるが、子どもが午睡をしないと、職員の休憩が取れない現実を聞かされ、評価を躊躇する。子どもの最善の利益のために、もっと工夫して欲しいと言いたい。

トイレトレーニング

2歳前後に大脳、内臓などの排泄機能の成熟がみられ、1歳児クラスでオムツを取るのが一番簡単だが、理想より1年遅く2歳児クラスでトイレトレーニングを始めている保育園がほとんどである。「オシッコが出ちゃった」という告知、「オシッコしたい」という予知を経験しながら排泄は自立していく。「告知」「予知」どちらも大事だが、床を汚したくない大人が「告知」を嫌がると、おむつ外しに時間がかかる。紙おむつが普及し便利になったが、生活習慣は大人の適切な支援がないと自立していかない。2歳前後のタイミングを逃すと反抗期に入ったり、羞恥心ができて時間がかかり、その後の生活習慣、遊びにも影響が出ている。

保育には、「時代と共に変わる要素」と「普遍的な要素」がある。「時代と共に変わる要素」としては、女性の社会進出に伴う延長保育や地域の子育て支援などがある。「普遍的な要素」の代表が発達である。「3～4か月で首がすわり、1歳3か月で歩く」といった身体的発達、「7～8か月での人見知り、1歳半の母子分離不安」といった精神的発達などの発達過程は昔も今も変わっていない。

発達過程を正しく捉えた保育をすると、子どもは健全

に育ち、大人も楽しく子育てができる。保育士は子どもの育つ筋道、発達についてもっと学んで欲しい。

主に感じていることを4点上げたが、私が現在勤務している保育園では、子どもたちに自由を与えて、自主性を育て、しかも規律を守る子どもに育てるために「鍵のない保育園」、「任せる保育」に力を入れている。

◎5歳児は生活習慣の大事さを理解し、外から帰ったら各自手洗い、うがいをし、食後は歯磨きをし、気候に合わせて洋服の着脱をしている。時々、忘れる子どもに、保育士は個別に声をかけている。

◎外部講師を招いたお稽古事は一切していない。3名のボランティアより、毎月「お話し会」で、クラス毎にお話しをしてもらっている。発達に応じたりリトミック、体育遊びなどは保育士が、保育の一環として行っている。



お話し会

◎午睡は4月から、4・5歳児はやっていない。年度の途中より、3歳児クラスで午睡が必要でない子どもは、4・5歳児と眠らないで過ごしている。



給食当番をやっている4歳児

◎トイレトレーニングは1歳児クラスで行っている。ほとんどオムツがとれ、2歳児クラスへ進級している。

他に気になることとして、保護者対応がある。どこの保育園も数人の保護者に振り回されている感じである。私の園も同じで、困難ケースは担任だけに任せないで、職員会議でケースカンファレンスを行いながら、全員で対応策を考えるようにしている。

継続して3年後に再び評価に行った時、前回の指摘事項を直してくれていると、とても嬉しくなる。その保育園の園長先生には「謙虚さ」があり、職員を信じ、指導力もある。評価者になったお陰で、すばらしいリーダーと巡り合い、見習いたいと思うことがある。

年齢を重ねると、謙虚さを忘れがちである。常に謙虚さを失うことなく、葛藤の中で誠実に評価を行い、「子どもの最善の利益を考慮した人権に配慮した保育」の実現に微力ながら貢献したいと考えている。